

いわき農林水産ニュース

平成29年9月号(第151号) 発行 9月28日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



サンシャインいわき梨は、大きくて甘い
「涼豊」(県オリジナル種)が旬です。

目次

- ・【特集】「いわき牛」全国へ……………p.1
- ・【重点施策】耕作放棄地の解消に向けて……………p.3
- 〔管内の各種取組みの実績(8～9月)]……………p.4～
- 〔お知らせ〕
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果 p.9
- ・野生きのこ等の出荷・摂取制限について……………p.9
- ・イベント情報……………p.10
- 〔連載記事〕
- ・GAP コーナー……………p.11
- ・6次化商品紹介……………p.11
- ・いわき管内の県農林水産部関係機関業務紹介……………p.12

【特集】「いわき牛」全国へ

全国和牛能力共進会

いわきから初出場で優等賞受賞！

9月7日(木)～11日(月)、宮城県仙台市の夢メッセみやぎにおいて、第11回全国和牛能力共進会(宮城大会)〔以下、共進会〕が開催されました。今回の共進会は、隣県の宮城県での開催であることから、本県の畜産復興の姿をはじめ、「福島牛」の改良成果を全国へアピールする絶好の機会と捉え、上位入賞を果たすため出品候補牛の生産の段階から県、市町村、畜産関係団体、生産者等が連携のもと取り組んでまいりました。また、前回の第10回全国和牛能力共進会(長崎大会)では、東日本大震災及び東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の影響で9頭しか出品できず、残念な結果であったことから、なおさら関係者の共進会への思いはとても大きいものでした。



見事、優等賞を獲得した「ひろこ号」、草野純一さん(左端)、草野隆さん夫妻(左から3番目・4番目)と関係者の皆さん

このような中、共進会の第3区(生後17～20か月未満の若雌)の県代表として出品されたいわき市三和町の草野隆さんの飼養牛「ひろこ号」(父：高百合、母の父：安福久)が、優等賞15席を獲得しました。

いわき地域では、過去に全国和牛能力共進会の県代表として出品されたことがなく、今回の草野さんと「ひろこ号」の出品決定以降、いわき地域の関係者の盛り上がりで上位入賞への期待は非常に大きく、当日はいわき地区から大勢の応援者が会場へ駆けつけ、草野さんと「ひろこ号」へ熱い声援を送り、優等賞受賞発表後には大勢の関係者の方々がこの栄誉を喜びました。

受賞後、草野さんは、「いい牛を生産し、若い世代の人が牛飼いをめざしてくれるように今後も頑張りたい。支えてくれた家族、関係者に感謝したい」と喜びと感謝を語っていました。

草野さんと「ひろこ号」は、6月28日（水）に本宮市の県家畜市場で開催された共進会の県最終選抜会で県代表に選抜された日から、息子の純一さんと親子二人三脚で「ひろこ号」が最高の状態で共進会に出品できるよう、共進会開催までの約2か月間、JA福島さくらの畜産担当職員の指導を受けながら、暑さを避けるために毎朝5時から自作の運動場を使用し、ひろこ号の歩行運動や立ち姿等の調教に取り組みました（写真参照）。この結果、本番の審査会場では、草野さんと「ひろこ号」は堂々たる入場を果たし、調教どおりの歩様と立ち姿を発揮させて「ひろこ号」の体型や資質の良さを十分にアピールすることができ、今回の優等賞受賞に繋がりました。



（「ひろこ号」を気遣う草野隆さん）



（手作り運動場）

また、共進会の付帯行事である和牛審査競技会（後継者の部）には、いわき市三和町の高山優太さんが県代表として出場しました。

高山さんは、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の影響で浪江町津島からいわき市三和町へ避難して営農を再開され、現在は繁殖雌牛約70頭を飼養しています。

審査競技会の当日、高山さんは全国の出場者とともに審査競技用に準備された繁殖雌牛の体型や資質等の美点や欠点を審査するため、課題牛の横や後方からの目視と皮膚や毛を触りながらの感触による審査技術を競い合いました。その結果、高山さんは惜しくも入賞を逃しましたが、「審査は非常に難しかったが、自分の勉強のためになり、いい経験ができた。」と今後の抱負を語っていました。いわき農林事務所では、いわき市の肉用牛振興の発展に引き続き技術支援を行って参ります。



（第3区の審査を受ける草野純一さんと「ひろこ号」）

（写真中央：審査に臨む高山優太さん）



（写真中央：審査に臨む高山優太さん）

（農業振興普及部）

「全国和牛能力共進会」とは

全国和牛能力共進会は、公益社団法人全国和牛登録協会が主催で、5年に1度、全国の道府県から選抜された優秀な和牛が一堂に会し、和牛の改良成果と肉質の優秀性を競い合う全国大会で、「和牛界のオリンピック」とも称されます。今回の宮城大会では、過去最多の513頭が出品されました。

福島県は、今回の共進会を力強い復興の姿と「福島牛」のブランド力を発信する機会として、県基幹種雄牛「高百合号」の産子を中心に出品し、過去最高の成績を獲得しました。

いわき管内における耕作放棄地の解消に向けて

1 「耕作放棄地」って？

耕作放棄地とは、以前耕作されていた土地で、過去1年以上作物を作付けせず、今後も再び作付けを行う予定のない土地を指します。いわき市における耕作放棄地面積は、1,987 ha（2015年農林業センサスより）と年々増加傾向にあります。

耕作放棄地は、病害虫や鳥獣被害発生の温床となり、景観の悪化や廃棄物の不法投棄が懸念されるなど、農村地域の活力低下の要因になることから、農林事務所では、いわき市耕作放棄地対策協議会と連携し、多様な担い手による解消を推進しています。

なお、平成29年度より、農業委員会が毎年行っている農地の利用状況調査において、遊休農地[※]と判断された土地を放置すると、固定資産税の課税が強化されることになりました。



（作付けが行われていない農地）

※農地法の定義で、「現に耕作の目的に供されておらず、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地」。

2 耕作放棄地再生のための支援事業

耕作放棄地の再生作業には、「耕作放棄地再生利用緊急対策事業」による補助制度が活用できます。

この事業は平成30年度が終期のため、事業計画は、平成29年度末までに作成する必要があります。いわき管内では、オリーブによる再生実績があり、この機会に是非、事業の活用をご検討ください。詳しくは、いわき農林事務所農業振興課又は、いわき市農業振興課へお問い合わせください。

（農業振興普及部）

お問い合わせ

県いわき農林事務所
農業振興普及部 農業振興課
◆TEL：0246-24-6160
いわき市農林水産部 農業振興課
（いわき市耕作放棄地対策協議会）
◆TEL：0246-22-7471

耕作放棄地再生利用緊急対策事業

【事業の概要】

- 対象者
 - ・農業者、農業法人、NPO法人、集落組織等
- 対象となる農地
 - ・農振農用区域内であること
 - ・自己所有地でないこと
 - ・農地再生に概ね10a当たり10万円以上の費用（労働費含む）が見込まれること

【支援内容】

- 再生作業（雑木の除去・深耕・整地等）
 - ・10a当たり 5万円を交付
（重機使用等の場合：事業費の1/2を交付）
- 土壌改良（障害物除去等がなされた農地）
 - ・10a当たり 2.5万円を交付
- 営農定着（営農資材調達、導入作物の絞込み等）
 - ・10a当たり 2.5万円を交付
- 施設等補完整備
 - ・再生活動に付帯して実施する以下の取り組みに事業費の1/2を交付
 - ①基盤整備（排水施設、農道等）
 - ②農業体験施設（市民農園、教育ファーム）
 - ③農業用機械、施設のリース
- 経営展開
 - ・経営相談、加工品の試作や試験販売：1取組主体当たり100万円以内

(公財)イオン環境財団による企業の森づくり活動実施〔9月16日(土)〕

公益社団法人イオン環境財団といわき市、福島県の3者による「企業の森づくり協定」に基づく植樹活動が行われました。

開会式では来年の第69回全国植樹祭に向けた「森林とのきずなづくり植樹リレー」が行われました。その後、県内外から集まったイオングループ社員や地元小中学校生など約700人により、約1.1haの海岸にクロマツやシャリンバイなど計7,000本が植栽されました。参加者の中には、他の地域でも植樹を行ったことがある人もおり、手際よく苗木を植えていきました。植栽後は思い思いに記念写真を撮りながら、これからの海岸林としての成長を期待しているようでした。(森林林業部)



市内錦町須賀地区の「イオンの森」の看板の前で
(左から、清水いわき市長、畠副知事、岡田イオン環境財団理事長)

いわきから2名が「森の名手・名人」に選ばれました！〔8月25日(金)〕

公益社団法人国土緑化推進機構は、森や山に関わる生業(木こり、炭焼き、木地師、大工、椎茸生産等)において、優れた技をもってその技を極め、他の模範となっている達人について、「森の名手・名人」として、平成14年度から毎年選定を行っています。

平成29年度は、全国で新たに70名の方が「森の名手・名人」に選定され、当いわき農林事務所管内においても、2名の方が選ばれましたのでご紹介します。

○森づくり部門「道づくり」 豊田新一氏(田人町)

森林内にある丸太を利用しながら地形や条件を考慮して作業道づくりを行うことにより、低コストでかつ、長く安全に利用できる道づくりを行い、地域の森林整備の推進に努められています。また、作業道づくりの講師も務めており、技術者の育成にも貢献されています。



(受賞された豊田氏・研修講師の様子)

○加工部門「指物師」 赤津隆氏(勿来町)

時代筆筥や船筆筥等の和家具の製作及び修理を手がけられていて、特に、船筆筥は、水難事故に遭った際に重要な財産を守るために機密性や浮力性が求められる家具であることから、使用する材料の選定や加工技術など非常に高度な技術が必要とされています。全国的にみても和家具の製作を手がける方が少なくなっており、貴重な技術が高く評価されたところです。



(受賞された赤津氏・船筆筥)

(森林林業部)



第69回

入国植樹祭

ふくしま
2018



育てよう
希望の森を
いのちの森を

平成30年6月10日開催!!

ふくしま・いわき観光PRキャラバン in 東京都庁〔9月7日(木)・8日(金)〕

東京都庁全国観光 PR コーナーにおいて、いわき市の観光・物産 PR イベントを開催しました。当日は、都庁職員や都庁展望台に観光に来た方を中心に多くの方々が来場しました。

物販ブースでは、JA 福島さくらが旬のサンシャインいわき梨やトマト、いわき産コシヒカリ「Iwaki Laiki」を販売したほか、いわき観光まちづくりビューローが「常磐もの」のかまぼこや6次化商品などを販売しました。特に、梨とトマト、かまぼこは完売となりました。外国人観光客からは、サンシャインいわき梨が大好評で、試食いただいた方からは笑顔がこぼれ、多くの方々に購入していただきました。秋から冬にかけての観光 PR、いわきファンの拡大を図ることができました。(いわき地方振興局)



(大人気のサンシャインいわき梨)

親子漁業体験バスツアー

〔8月26日(日)〕

いわき市漁業協同組合が主催する「第1回親子漁業体験バスツアー」が開催されました。この取組みは、平成24年から、震災後の本県漁業への理解を深めるために継続して実施されているもので、今回は、勿来地区の漁業者が企画し、小学生とその保護者30名が参加しました。

体験メニューは、製氷工場見学、勿来漁港での漁船乗船・船びき網操業の見学でした。北茨城市大津港の製氷工場では、漁業に不可欠な氷の製造工程や冷凍庫を見学し、参加者は冷凍庫の大きさや内の寒さに驚いていました。漁船乗船、操業風景の見学では、4隻の漁船に参加者が分乗し、操業船1隻が船びき網を操業するのを間近で見学しました。



(漁業者による漁具説明)

採れたばかりのシラスを触ったり、普段見られない漁業の現場を見て、子ども達からは歓声や笑顔があふれ、講師役の漁業者からも、次回も実施したいとの希望が出されました。(水産事務所)

担い手募集！「産地見学ツアー いちご・ねぎ・なし」開催〔9月9日(土)〕

就農へのイメージを現実的にしてもらうことを目的として、就農希望者10名が、市内の①新妻辰良氏のねぎほ場、②大野水耕生産組合のいちごハウス、③JAなし選果場、④草野富夫氏のなしほ場の4か所を1日で巡るバスツアーを開催しました。

各生産者から作物の栽培状況や実際の農業経営、就農した経緯などの説明をいただき、参加者は熱気ムンムンで、生産者にたくさんの質問をしていました。また、選果場では、参加者全員リラックスして、サンシャインいわき梨の味を堪能しました。



(生産者の経験談に興味津々！)

参加者からは「生産者と直に話ができた」「実際の農業現場を見ることができた」といった声が聞かれ、今後も、新規就農を目指す方々への応援を続けます。(農業振興普及部)

当所発注の3工事が、県優良工事の表彰を受賞！〔9月13日(水)〕

福島市において「福島県優良建設工事」の表彰式が行われ、当所発注工事の中から3社（藤田建設工業(株)・(株)大川原建設・矢田工業(株)）※の工事が受賞しました。

この表彰は、県が発注した工事の中から、工期内に安全に、創意工夫を凝らした技術を駆使して完成し、出来型、品質、出来ばえが優秀な現場を対象として、工事の技術水準の向上と安全な施工の確保を図ることを目的としております。

無事に仕上げた現場が高評価を得たことは、現場の技術者の方々にとって、今後取り組む工事への意欲に繋がるものと思われ頼もしく感じます。

今後も地域住民のニーズに耳を傾け、受注者との連携を密にして、地域の農林業生産基盤整備に努めてまいります。

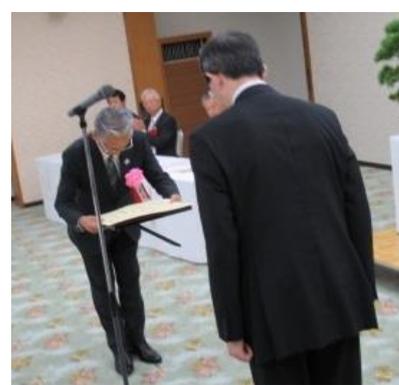
(総務部)



(矢田工業)



(大川原建設)



(藤田建設工業)

※表彰を受けた各事業の詳細は、8月号(第150号)でご紹介しています。

沼之内魚市場で入札再開

〔9月6日(水)～〕

いわき市漁協沼之内支所魚市場において入札販売が始まりました。これまでは、仲買組合との相対取引により、魚種毎一律に単価が決められていましたが、市場と仲買人の準備が整ったため、入札取引に移行しました。

これにより、仲買人同士で競争して入札するため、以下のとおり単価の向上が見られています。

沼之内支所魚市場は狭いため、入札時の混乱が懸念されていましたが、これまで大きなトラブルは無く午前中に終了しています。また、漁業者の奥さんなどの漁業関係者も、市場での選別・計量を手伝いに来るようになり、市場に活気が戻ってきました。震災前の状況に一步近づいたと感じます。

【1kgあたり単価】

- ・ヒラメ(さし網) 367円 → 600円～1,200円
- ・マコガレイ 300円 → 500円～1,000円
- ・ホッキ 170円 → 220円～280円
- ・カナガシラ・コモンカスベ…今回の入札で100円程度



(入札の様子)

(水産事務所)

小名浜魚市場で「ふくしまの販売戦略会議」

〔8月22日(火)〕

当会議は、県産水産物の市場での競争力強化と販路の拡大・確保を図るための販売戦略を検討することを目的に、福島県漁業協同組合連合会が設置したもので、県内漁協役員職員、学識経験者、内閣府、消費者庁、水産庁関係職員など約30名が出席し、平成29年度事業計画と年間開催計画について協議しました。



(会議の様子)

また当日は、販売戦略検討として、北海学園大学の濱田教授による「福島県産水産物の流通と末端販売へのアプローチについて」の講演が行われ、報道・情報の拡散による風評被害の実例と対策について活発な意見交換が行われました。

参加した漁業関係者からは、「風評払拭には消費地市場へ毎日県産水産物を供給することが重要」「県外消費者に対して安全性をPRする取り組みを強化すべき」などの意見が出され、充実した検討会となりました。

(水産事務所)

大和田自然農園で「Fukuがあるのアグリガーデン」開催

〔8月22日(火)〕

ふくしま農業女子ネットワークと県が主催し、いわき市好間の大和田自然農園を会場に、県内で活躍する女性農業者の活動を広く紹介するためのイベントを開催しました。ネットワーク会員など、県内の女性農業者15名がスタッフとして参加し、夏休み中の子どもや親子連れなどが訪れました。



(農業女子ネットワーク会員の皆さん)

会員が丹精こめてつくった農産物や加工品を販売し、野菜柄のスタンプを使ったオリジナルバッグ作りやブルーベリー摘み取りなど、ワークショップや食育体験も実施しました。特に、子ども達からは、新鮮なフルーツを使ったスムージーや本格的な石窯で焼くピザ作りが人気で、参加者は楽しい一日を過ごしていました。

(農業振興普及部)

JA福島さくらいわきねぎ部会に新しい支部が設立

〔8月23日(水)〕

JA福島さくらいわきねぎ部会の新支部設立総会が四倉の太平洋健康センターで開催されました。

これまで、神谷地区、草野地区にはそれぞれ支部が設置されていましたが、近年、特に神谷地区における部会員の高齢化や担い手不足、圃場の宅地化により、年々会員が減少していることから、隣接する草野地区と合併し、新たな支部を設けることになったものです。



(設立総会にて、平北支部の皆さん)

新支部は、設立総会で「平北(たいらきた)支部」と命名され、新支部会員35名は、新たな体制のもと、これまで以上に良質のねぎを出荷したいと決意を新たにしていました。

(農業振興普及部)

第2回「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン〔9月2日(土)〕

マルト中岡店において、今年度2回目のキャンペーンを開催し、県産農林水産物の安全性や美味しさをPRすると同時に、第三者認証GAPのPRを行いました。

サンシャインいわき梨(幸水)の試食及びアンケートを実施し、協力者にはいわき梨又はいわき産ミニトマトをプレゼントしました。試食いただいた方からは、「いわきの梨は美味しい」「甘くて、とてもみずみずしい」といった声が聞かれました。また、美味しい梨の見分け方の質問やベトナムへの梨輸出に関するニュースについて、直接話をすることができました。

アンケート調査の結果、県産農林水産物の購入意欲に関して、「購入してもよい・積極的に購入したい」が全体の約96%を占めました。(企画部)



(いわき市マスコットキャラクター「なしポチ」も大活躍！)

サンシャインいわき盛りだくさんフェスタ in 友部SA 〔8月26日(土)〕

友部SAにおいて、いわき市をはじめとした福島県の観光PRイベントを開催しました。このイベントは、さらなる観光交流促進及びファンの拡大を目的として、管内の各団体と連携して開催したものです。

当日は、ステージイベントのほか、旬のサンシャインいわき梨や郷土料理「サンマのポーポー焼き」、いわき市産いちごを使ったかき氷、いわき菌床椎茸組合・ワンダーファームの6次化商品等が販売され、来場者が買い求めています。また、県水産事務所・水産試験場による“いわきの海の生き物と触れ合える”タッチプールが特に人気を集めました。

今後も、いわき市の魅力を多くの人に知ってもらえるよう、関係機関と連携し、県内外におけるPRを積極的に実施してまいります。(いわき地方振興局)



(いわき市産いちごを使ったかき氷が注目を集めました)

企業紹介

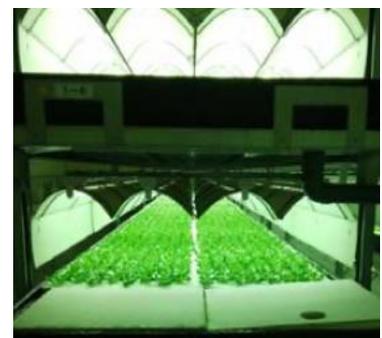
「磐栄アグリカルチャー株式会社」

磐栄アグリカルチャー株式会社(村田裕之代表取締役)は、磐栄ホールディングス株式会社の農業部門が独立し、平成28年9月に設立された農地所有適格法人で、いわき市泉町でフリルレタスの水耕栽培を始め、オリーブの栽培や黒にんにくの製造販売を展開されています。



(同社生産のフリルレタス)

同社の植物工場では、温度や湿度が制御されたクリーンルームで、人工光により1日2,700株のフリルレタスが生産され、県内のスーパーや首都圏へ出荷されています。また、この植物工場は、このほどJGAPの認証を取得し、「安全・安心な自然の恵みをお届けする」との方針を掲げ、新たないわきブランドの創出に向けまい進されています。



(人工光による生産)

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成29年8月分）

□ 農林畜産物の検査結果

検査した6品目17検体すべてにおいて、放射性セシウムは検査機器の検出限界値以下でした。内訳は（表1）のとおりです。また、出荷制限状況は（表2）のとおりです。（企画部）

（表1）1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

ミョウガ 1、日本ナシ 1、菌床しいたけ（施設）4、菌床なめこ（施設）2、牛肉 5、原乳 4
--

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（8月末現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび、こしあぶら
	きのこ	野生きのこ、原木なめこ（露地）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）

□ 海産魚介類の検査結果

612 検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものはありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満（以下、ND）の割合は、平成29年8月には97.4%となっています。8月31日現在の出荷制限等指示魚種は（表）の10種類になっています。（水産事務所）

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限等指示

ウミタナゴ	サクラマス	ムラソイ
カサゴ	シロメバル	ヒノスガイ
キツネメバル	スズキ	
クロダイ	ヌマガレイ	

平成29年8月31日現在 10種類

野生きのこ等の出荷・摂取制限について

野生きのこ等の発生・採取時期を迎えますが、生産者や直売所担当者等の皆様におかれましては、次の点に留意して下さるようお願いいたします。

1 出荷制限品目について

現在、いわき市産のきのこのうち、出荷等が制限されている品目は（表）のとおりです。

これらの品目は、**地域全体としての安全性が確認されていないことから、出荷制限は今シーズンも継続しています。**

このため、出荷・販売だけでなく、飲食店や宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用しないでください。また、自主検査により「基準値（100bq/kg）以下」であっても出荷や販売等は行わないでください。

2 摂取制限品目について

いわき市産の野生きのこについては、摂取制限措置も取られていることから、食用とすることも控えて下さるようお願いいたします。

3 栽培きのこについて

「原木なめこ（露地）」以外の栽培きのこは、栽培前に生産資材（きのこ原木・ほだ木、菌床等）の安全性の確認を県の検査機関において実施します。国が定める当面の指標値（きのこ原木・ほだ木50bq/kg）以下で安全性が確認できた生産資材のみ、販売目的のきのこ栽培に使用してください。

また、発生したきのこは、出荷・販売前に県によるモニタリング検査を受ける必要がありますので、きのこ栽培の開始・再開を検討されている場合は、森林林業部までお問い合わせください。（森林林業部）

（表）いわき市産きのこの出荷制限等品目

出荷、摂取	品 目
出荷制限	野生きのこ、原木なめこ（露地）
摂取制限	野生きのこ

※市町村毎に出荷制限品目等が定められていますので、県のHP「ふくしま新発売。」（www.new-fukushima.jp）または森林林業部で確認してください。

イベント情報

「Iwaki Laiki」米粉フェスタ 2017

- 日 時：平成29年 9月30日（土）10：00～16：00
10月 1日（日）10：00～16：00
- 場 所：小名浜アクアマリンパーク（小名浜美食ホテル付近）
- 主 催：「Iwaki Laiki」戦略ブランド化推進本部（TEL：0246-22-1147）

平成28年度米の食味ランキングで最高ランク「特A」のいわき産コシヒカリ「Iwaki Laiki」の米粉を使用して調理した創作料理やスイーツ等、いわき産米の魅力を堪能できるイベントです。

いわき市中央卸売市場開設40周年記念大会「市場まつり」

- 日 時：平成29年10月29日（日）9：30～14：00
- 場 所：いわき市中央卸売市場（雨天決行）
- 主 催：いわき市中央卸売市場開設40周年記念大会実行委員会

いわき市中央卸売市場開設40周年を記念して、食育・花育イベントを開催します。模擬せりや野菜・果物の販売、アレンジ花教室等、多数の催しを企画しておりますので、ぜひご参加ください。

「復興・久之浜漁港まつり」

- 日 時：平成29年10月29日（日）9：00～14：30
- 場 所：久之浜漁港
- 主 催：復興・久之浜漁港まつり実行委員会

食と漁村文化の普及、継承をテーマに、漁船乗船、稚魚放流、魚介類販売、チャンチャン焼き試食など多彩なイベントをご用意されています。

「ふくしま おさかなフェスティバル in いわき」

- 日 時：平成29年11月12日（日）10：00～15：00
- 場 所：小名浜魚市場
- 主 催：福島県

サンマつかみ取り、漁協女性部の食べ物コーナー、ホシガレイ稚魚の放流体験、県調査船「いわき丸」乗船体験など多彩な企画をご用意しています。ふくしまの漁業を学び、地域を盛り上げましょう！

トピック

いわき農林事務所職員（岡田技師・齋藤技師・遠藤技師）が 治山研究発表会で全国2位の優秀賞を受賞！

9月21日（木）、いわき農林事務所森林林業部職員の岡田健吾技師、齋藤綾香技師、遠藤普子技師の3名が共同で、治山研究会主催「第57回治山研究発表会」の第2セッション（森林造成・整備等の取組）において、全国2位の優秀賞を受賞しました。

前日20日（水）には、東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターで発表会を行い、研究テーマ「新舞子地区におけるニセアカシアの分布拡大とクロマツへの影響」について、岡田技師が共同研究の成果を堂々と発表しました。



左から 遠藤技師、岡田技師、齋藤技師

いわき地方第三者認証GAP取得に向けた現地研修会・FGAP説明会開催

9月11日(月)、いわき市勿来町の生産者倉庫にて「いわき地方第三者認証GAP取得に向けた現地研修会」を開催しました。

本現地研修会は、水稻生産者の倉庫にて、実際にGAP指導員による指導を受けながら、第三者認証GAP取得に向けて必要な事項について学ぶことを目的として開催しました。講師として、認定NPO法人アジアGAP総合研究所の内田修一氏をお招きし、現地ほ場主である木戸安道氏や関係機関を含めた計14名が、内田氏による指導を受けました。



(現地研修会の様子)

木戸氏や生産者からは、農薬管理方法や受託農地における生産管理方法、農業機械の使用方法についての従業員への指導による労務環境改善など、実践的な内容について多く質問が挙げられました。内田氏からは、「自分の農場で改善が必要な事項について洗い出し、重要度を評価し、それら対策方法について自分で考えることが必要である」と、GAPを取り組むにあたる考え方について学ぶことができました。

午後には、勿来市民会館にて「ふくしま県GAP (FGAP) 説明会」が開催されました。FGAPは7月11日から農林水産省ガイドライン準拠された県独自のGAP認証制度です。当日は、生産者等23名が出席され、FGAPの概要や実際に使用される点検・評価シートについて、学ぶことができました。

(農業振興普及部)

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に掲載された6次化商品をご紹介します！

磐城農業高校の生徒が考案し、加工・販売も行っている、いわき市特産「日本なし」の6次化商品を4つご紹介します。「梨酢」は、梨の風味と食感を楽しくするように改良を重ね、絶妙なバランスに仕上がりました。水や炭酸水で割るのはもちろん、調味料としても使用できます。また、同じく「日本なし」の食感を楽しくする「ドレッシング、焼き肉のたれ、ジャム」もおすすめです。これらの商品は、「磐農ストア販売会」



等の各種イベントや、11月にはネット通販でもお買い求めいただけます。右側学校Webページでご確認ください。

担当の高校生

加藤あいさん、鈴木桂子さん、松本比奈子さん



① 梨酢

● 内容量:150ml ● 販売価格:250円

「日本なし」のフルーツピネガー。甘くて飲みやすい、希釈用飲料です。



② なしドレッシング

● 内容量:190ml
● 販売価格:300円



③ なし焼肉のたれ

● 内容量:260g
● 販売価格:350円



④ なしジャム

● 内容量:200g
● 販売価格:300円

「日本なし」を48%以上使用。相違に応じ、②～④のセットもご用意します。

梨フトに
いかがですか？



福島県立磐城農業高等学校
■いわき市榎田町小名田60 ■TEL:0246-63-3310
■Web:http://www.iwaki-ah.fks.ed.jp

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」は「ふくしま6次化情報STATION(<http://6jika.com/>)」に掲載されていますので、是非ご覧下さい。

いわき管内の 県農林水産部関係機関 業務紹介

本コーナーでは、いわき管内の県農林水産部関係機関の業務を紹介いたします。今回は、いわき農林事務所 森林林業部を紹介いたします。

森林林業部では、森林の有する多面的機能を十分に発揮させるため、間伐の推進や主伐後の再造林、保育など森林の整備を支援するとともに、林業所得の向上を図るため、林内路網の整備と高性能林業機械の導入等による低コストで効率的な森林施業システムの確立を支援しています。

原発事故による放射性物質の影響等に関する対策としては、出荷制限となった山菜等の流通防止の指導、出荷可能な特用林産物のモニタリング検査、製材品の表面放射線量の調査を行っています。

森林の保全関係では、山地災害の防止と復旧のための事業や保安林の管理のほか、無秩序な森林の開発による土砂の流出や崩壊などの災害を防ぐため、適正な林地開発の指導を実施しています。

なお、「第69回全国植樹祭」が来年6月10日（日）に南相馬市で開催されることが決定し、東日本大震災により被災した緑豊かなふるさとの再生と、復興に向けて力強く歩む福島県の姿を全国に発信することとしています。また、前日の6月9日（土）には、いわき市で「第47回全国林業後継者大会」が開催され、森林づくりの先人の考えや担い手の取組について意見を取り交わすこととしており、これらの開催機運を高めるための取組を進めています。

森林林業部の主な業務

- 1 森林整備の推進、森林病虫害の防除、林野火災の予防
- 2 林業事業体の育成強化と林業担い手の育成
- 3 木材産業の振興、特用林産物生産の振興
- 4 保安林の管理、林地開発の調整
- 5 山地災害の防止と復旧、海岸防災林の整備
- 6 森林整備の基幹となる林道の整備



適正に間伐された
ヒノキ人工林（三和町）



いわき農林事務所

キャッチフレーズ

このキャッチフレーズには、「燦々と降り注ぐいわきの太陽の光のように、農林業に携わるすべての人に、一日でも早く真の笑顔があふれるよう、所員が一丸となってスピード感と緊張感を持って目に見える成果を求めていく」という思いを込めています。

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース